

八幡平いにしえの宝

(市内にある指定文化財を紹介します)



隙間の氷



ナンブソウ

てんぐもり なつごおりやまふうけつ 天狗森の夏氷山風穴

所在地：天狗森国有林内
指定年月日：昭和49年4月21日（岩手県）

低温な風（冷気）が流れ出る洞穴や隙間を風穴と言いますが、ここは、山の斜面の上部から岩屑などが崩落し、それらが積み重なって崖錐が形成され、上部と下部との間に連続した空間（脈路）ができる累積風穴です。地元では夏氷山と呼ぶ人が多いようです。

詳しい調査によると、この風穴には二つの特徴があります。一つ目は風穴現象で、岩屑の隙間から冷気が流れ出し、地表や岩屑の隙間に氷が張っていることです。冷気の温度は5月から8月上旬まで0℃前後で経過し、その後9月に入ると5℃ほどに上昇して、11月には他の場所と同じになります。氷は表面、岩屑の隙間ともにゆっくり冷え固まったと思われ、透明です。表面の氷は5月中旬には全て融けますが、岩屑の隙間の氷は9月までは残っています。東北地方の主な風穴で、氷が遅くまで残るのはここだけです。風穴現象の仕組みについては、断熱膨張説、地中空気対流説などがあります。二つ目は特徴的な植物が生えていることで、エゾヒョウタンボク（県内唯一の産地）やナンブソウ（県内奥羽山脈で唯一の産地）、エゾメダシなど、風穴特徴植物としても貴重です。

（文・八幡平市文化財保護審議会委員 八幡輝夫）

《参考文献》 樋口利雄(1970)鮮苔地衣類雑報-東北地方の風穴地における鮮類植物-(日本鮮苔類学会)、長走風穴高山植物調査会(1993)国指定天然記念物長走風穴高山植物に関する調査報告書(大館市教育委員会)、林野庁(2007)夏氷山風穴植物群落保護林基礎および現地調査報告書(林野庁)、八幡輝夫・三浦正弘(1972)天狗森の夏氷山風穴(安代町教育委員会)、県文化財愛護協会(1975)岩手の指定文化財(熊谷印刷出版部)、安代町史(上巻)、八幡輝夫(2008)会報うすゆきそう-天狗森の夏氷山風穴の現況について-(岩手植物生態研究会)

編集後記

横間虫追い祭りの写真撮影に行ってきた（我が家の隣の集落です）。「地元の子どもや若者の数が減り、年々行列が寂しくなるなあ」と、地元の人が話しているのを聞き、どこも同じ悩みを抱えているのだと感じました。でも、今年は集まった人の数はいつもと同じか多いくらい？と思っていたら、そこには大更公民館の講座で来ていた皆さんが。こういう交流の形もあるんだなと、なんだかうれしくなりました。（齋藤）

7月18日早朝、女子サッカー女子W杯決勝戦・なしこジャパンの戦いを眠い目をこすりながら見た人も多かったのではないのでしょうか。私もその一人。あきらめないで戦う姿に感動しましたよね。私は、優勝の興奮そのままに県中総体相撲競技の取材に行きました。睡眠不足と30℃を超える暑さに疲労はピークでしたが、9月の通り、全ての種目で市内の中学生が優勝する活躍ぶりに疲れが一気に吹き飛びました。（北口）